椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第25号

令和元年6月1日発行
長野県小県郡青木村村松
発行人　本田昌彦
印　刷　杏花印刷

戦没者慰霊と恒久平和への思いを込め
昭和55年8月　ウエワク地区の高台に鎮座

コイキン観音像の建立

長野県ニューギニア会は、戦没者慰霊と恒久平和への願いを込めて、昭和55年8月25日、東セピック州ウエワク市のコイキン・マリックの高台にブロンズの観音立像を建立した。

慈悲深い観音像の建立事業には、大久保団長を始め猛4630部隊の戦友会、遺族会の他現地住民の温かい協力があった。

現地慰霊巡拝40回にあたり

長野県ニューギニア会　会長　本田 昌彦

昨年は当会設立50周年を迎え、記念慰霊大祭を執り行うことができました。

そして、今年はパプアニューギニアへの現地慰霊巡拝が40回目の節目の年となります。第1回は、昭和52年8月に故大久保豊団長以下20名で鹿児島空港よりニューギニアへ出発されました。第4回の昭和55年にコイキンマリックの丘に観音像が建立されました。

以来毎年20名程の参加者を得て実施され第18回の際は53名もの大勢の皆様が二班に分かれて巡拝されたこともあり、まさに今昔の感がいたします。慰霊巡拝に関わる思い出やエピソードは、当会発刊の「椰子の記」に綴られておりますのでご覧いただきたいと思います。若くして南海の孤島で無念の死を遂げられた御霊への妻・子・兄弟の追慕の念をつのらせる心情に胸を打たれます。東部ニューギニアでの戦没者は12万8千人で未収容の遺骨は7万6千余柱となっており、現地でお迎えを待って淋しく眠られています。

私どもとしては、戦没された英霊のゆかりの場所に行き、御霊のご供養をすることが大切だと考えています。永年続けてきた慰霊巡拝の灯を消すことなく続けていくことが当会に課せられた任務であると思います。

最近のニューギニアは、経済発展に伴い道路や車の状況も改善され以前より快適な旅ができます。スケジュールも余裕をもって組まれており、どなたでも参加可能です。今年の巡拝には多くの方々が参加され、40回目の節目の回にふさわしいものにしたいと願っております。

第40回記念　現地慰霊巡拝団員募集

★出発日　8月24日（土）
★帰国日　8月31日（土）　8日間
★訪問地　ウエワク・マダン・ゴロカなど、ご英霊が戦没したゆかりの場所を訪問できるよう旅程を調整いたします。
★旅行経費　49万8千円
★募集人員　15名、栃木県護國神社との共催
★催行会社　（株）WBC　☎03-3588-0771
★募集締め切り　7月10日（水）
申し込み・問い合わせ先　事務局・大久保 寛憲
☎026-286-2810

ブナ・ギルワの戦場スケッチ画

陸軍第55師団軍医　小野　彰

昭和17年秋、南海支隊派遣軍医としてポートモレスビー作戦に参戦。ブナ、ギルワ地区の激しい攻防戦の中で、医療の傍ら軍事郵便ハガキに現地の風景を描き短歌を添えた。復員後、大町市で開院。昭和33年画集「淡煙」を発刊した。

「北の空に帰るがごとく流れゆく
椰子の林に屍焼く煙」

東部ニューギニア方面

現地慰霊巡拝の旅・追想

戦没者慰霊の旅 40回を迎え

松本市　大久保　典昭

私の父、大久保豊は、長野県ニューギニア会の初代会長を永年務めさせて頂き、遺族会の皆様には大変お世話になりました。

昭和52年から始まった現地慰霊巡拝の旅が今年40回の節目を迎えることになり、戦友会やご遺族の皆様のご尽力に衷心より感謝いたします。

父は、平成3年の第15回慰霊の旅に参加した後、病に倒れ同年12月亡くなりました。

昭和40年の初めから戦友会の皆様と一緒に会の設立に奔走し、戦没者慰霊大祭の開催、現地慰霊巡拝団派遣、護國神社に鳴呼戦友の碑建立、55年には現地・ウエワクの丘にコイキンマリック観音像の建立などに心血を注ぎました。

あの情熱は何であったのか「今日我が家が平穏に暮らしていけるのは、過酷なニューギニア戦線から生還できたからではないか――」と言う強い父の思い入れを感じました。

私は第17回の巡拝の旅に参加して土屋会長さんと一緒にマリック観音の下に分骨をしてまいりました。

この時、父が亡き戦友と再会して現地の土に帰ったことを確認した次第です。

戦後74年の歳月が流れ先の大戦の風化が心配されていますが、県ニューギニア会も世代交代が進み、2世会の高齢化も進んでいます。もはや遺族会だけで慰霊祭や、現地慰霊巡拝団派遣事業も継続できない時が来ています。

「慰霊のともし火を」を守り、平和を願う国民の祝日を制定する時期にきていることを、遺族の皆さんと共に広く提案して参りたいと考えています。

ハンサでの慰霊祭
祭文を捧げる大久保団長

慰霊のともし火 後世に

船橋市　土屋　耕太郎

長野県ニューギニア会が昭和44年に設立されてから今日に至るまで、会としての活動が脈々と受け継がれ、現地慰霊巡拝も今年で40回を迎えられることに対し、心から敬意を表します。

戦後70余年が経過しても活動が存続しているのは、大久保豊初代会長を初めとする歴代役員、戦友・遺族の皆様の英霊に対する強い哀悼と、恒久平和への思いが大きな支えとなっていることも忘れることができません。

父（土屋利喜太）が東部ニューギニア戦線で戦友であった関係から、平成5年から12年まで父と共に8回、同13年からは3回、合わせて11回慰霊巡拝に参加させて頂きました。現地では戦友の皆様から当時の厳しい戦闘の様子をご説明頂いたことは、書物では得られない貴重な体験となりました。

現地は南洋特有の厳しい自然条件ではありますが、風光明媚な手つかずの自然が残されており、現地の学校訪問の際の児童らのキラキラ輝く瞳は、忘れられない思い出となっております。

父は平成20年に亡くなりましたが、現地でお世話になった川畑静さんも鬼籍に入られました。先達の皆様のご遺志を継いで、令和の時代も慰霊のともし火を守り、後世に伝えて参りたいと思います。

児童らに学用品を贈る
土屋会長（右）（ウリンゲン）

ハンサの地訪ね 亡き父を慕う旅 4回

中野市　宮嶋　叙子

戦後50年を迎えた平成7年3月、母は父の元へ78年の生涯を閉じ旅立って逝きました。この年の8月、私は現地慰霊巡拝に初めて参加させて頂き、これまで4回、ニューギニアの地を訪れることができました。

父は昭和19年2月、東部ニューギニア・ハンサにて戦死いたしました。亡き父の足跡をたどる現地慰霊の旅は、私にとって生涯忘れることができない思い出となり、当時を懐かしく思いながら時々アルバムを開いています。

昭和16年7月16日、父は祖父母、母と私を残して召集されて以来、検印済みのハガキが戦地から届きました。

「叙子、上手に歩けるようになったか。親父として何もしてやれない。すまない」また「満州の広大な農地で取れた美味しい野菜や果物を、一口食べさせてやりたい」など、軍事郵便に書かれた一文字、一文字が間もなく傘寿を迎える私の心の支えともなっています。

昨年、曾孫が誕生して曾祖母になり、心安らかな日々を送ることができますことを感謝いたしております。

令和の時代が幕を開けましたが、争いのない平和な世の中が続き、ニューギニア会の活動が何時までも続きますよう祈念いたします。

ハンサ・アワ集落での慰霊祭に臨む、
宮嶋さん（左）

ニューギニア方面現地派遣団 慰霊巡拝 旅の軌跡

第18回慰霊巡拝団参加の皆さん
平成6年9月、土屋団長ら52名　ラバウル班
（南太平洋戦没者の碑）

第7回慰霊巡拝団参加の皆さん
昭和58年8月、大久保団長ら39名（ラエ野戦病院跡）

西部ニューギニア慰霊巡拝団
平成7年以来3回巡拝団派遣（旧ホーランジア飛行場跡）

第8回慰霊巡拝団、昭和59年9月 46名参加
マダン（ヤポブヒルでの慰霊式）

戦没者ご遺骨の帰還 東部ニューギニアから42柱

平成31年2月28日、東京・千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて、東部ニューギニアからの帰還ご遺骨42柱の遺骨引き渡し式が行われた。

式典は戦友会、遺族会、国会議員など多数が待ち受ける中、収容派遣団員に捧持されたご遺骨が式典会場に入場、厚生労働省の職員に引き渡され祭壇に安置された。

全員による黙祷の後、上野厚生労働大臣政務官、関係各団体代表、遺族代表、国会議員らが拝礼・献花が行われた。

ご遺骨はこの後、厚労省の職員が捧持して霊安室に向かった。

今回の遺骨収集派遣事業には19名参加、派遣期間は2月13日から28日まで16日間。三班に分かれオロ州ポポンデッタ、東セピック州、マダン州ポギア、モロベ州ラエ、オロ州エオラクリーク地区を主体に遺骨収集活動を行い42柱を収容した。

東部ニューギニア方面における戦没者の概数は約12万7千6百人、収容遺骨概数は5万1千3百70柱（平成31年1月現在）となっている。

派遣団員に捧持され墓苑に入場するご遺骨

PX航空・成田～POM線運休 利用客減少に伴う措置

ニューギニア航空(PX)は4月から6月末までの期間、成田～ポートモレスビー線を運休としているが、7月6日から10月末まで週1便で運航を行うことを発表した。

同航空は昨年9月1日から成田～ポートモレスビー線をミクロネシアのチューク経由に変更した。これに伴い成田～モレスビー間の所用時間は約2時間ほど長くなった。

ミクロネシア連邦は、ヤップ、ポンペイなど4州からなり、チューク州はかつてトラック諸島と呼ばれ世界最大のサンゴ礁でできた島。先の大戦時には旧海軍の基地が置かれ、連合艦隊の戦艦・大和、武蔵などの泊地となっていた。

昭和19年2月17日、米機動部隊の空襲で、壊滅的な損害を受け、すべての戦力を失った。戦後は国連信託統治領となり、その後連邦として独立した。

日本からミクロネシアへ行くにはこれまでグアム経由でチュークに行くのが一般的でこの便により、アクセスが大幅に向上した。

チューク諸島には「世界絶景百選」にも選ばれたジープ島などがあり、透明度の高い海が人気となっている。

ニューギニア航空は成田～ポートモレスビー線の運航について、経済環境や需要動向を精査しており、運行の再検討、増減便などの計画を進めている。

成田・モレスビー線が経由する
ウエノ島（旧トラック島）の国際空港

平成30年度第51回通常総会の報告

長野県ニューギニア会の第51回通常総会は、2月11日松本市浅間温泉・みやま荘で開催された。

総会は午後2時に開会、始めに南十字星の下に眠る英霊と、会員物故者に対し黙祷を捧げた。本田会長は挨拶の中で「昨年7月の戦没者慰霊大祭は50回の節目を迎え、有意義な大祭となりました。新年度は、東部ニューギニア方面への慰霊巡拝団の派遣が40回の節目となり、8月に催行を予定していますが、皆様の積極的なご参加を期待しております。会員の高齢化が進んでおりますが、事業をできる限り継続していく中で、会の運営を次の世代（孫・ひ孫）に継承していくため、更なるご支援をお願いします」とあいさつした。

続いて議長に安川幹事長が就き、第1号議案、平成30年度事業報告から、第5号議案平成31年度予算案までが上程され、審議の結果いずれも原案どおり可決した。また、役員の改選に関する件では、本田昌彦会長以下全役員の再任が承認された。

挨拶に立つ本田会長

○可決された主な議案内容は次のとおり

■平成30年度事業・決算報告

収入総額　3，836，386円
支出総額　1，921，788円
翌年度繰越金
1，914，598円

■令和元年度主な事業計画

・第51回ニューギニア方面慰霊大祭
開催　7月28日（日）
・第40回東部ニューギニア方面
慰霊巡拝団派遣
・第4回西部ニューギニア方面
慰霊巡拝団派遣
・会報「椰子の樹」第25・26号発行
・ホームページの維持管理
・第52回長野県ニューギニア会
通常総会開催
令和2年2月11日

■令和元年度予算

収入総額　3，328，598円
支出総額　1，938，000円
主な予算　（単位　千円）
慰霊大祭費　492
慰霊巡拝費　340
総会費　303
広報費　229　他
次年度繰越金
1，390，598円

役員の改選（任期2年）
本田昌彦会長以下全役員を再任

第51回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭のご案内

本年も恒例のニューギニア方面戦没者慰霊大祭を開催いたします。毎年酷暑の中での開催ですが、灼熱のニューギニアに思いをはせ、英霊のご冥福をお祈りいたしましょう。健康に留意され、大勢の皆様がご参列くださるようお待ちしております。

▽令和元年7月28日（日）正午より
▽長野県護國神社　松本市美須々6の1
▽受付・美須々会館にて　午前10時30分より
▽美須々会館が控室です　お茶は準備いたしますが、昼食は各自ご用意願います

第二鳥居と脇鳥居の再建 県護國神社で奉告祭

県護國神社では、先の台風により倒壊した第二鳥居と脇鳥居を再建、4月1日に奉告祭、29日・30日に春季例大祭で、お披露目した。

両鳥居はカナダ桧を用いて元通りに再現され、同神社では「お蔭で立派な鳥居が再建できた。引き続き大鳥居の改修を進めたい」と、している。

再建された第二鳥居

竹村編集委員復帰

一昨年来、リンパ腫のため入院加療していた竹村淳委員は、抗がん剤治療により、ほぼ全快して退院、この程会報編集作業に復帰しました。

椰子の実

★「平成」が終わり、5月1日より新元号「令和」がスタートした。その典拠は日本最古の歌集『万葉集』の中から採用され、穏やか且つ和やかな時代を意味するとのことで、新時代への夢を膨らませてくれる。連休10日、なんだかお正月のような賑わい。どこにも行かなかった人が多かったとか。マスコミも騒ぎすぎ。

★戦時中の体験者は「令」の一字に振り回された苦い記憶が甦る。○○令とは命令の通達。編集子は昭和19年の学徒勤労令で学校生活が無くなり、疎開もできなかった。

★「皇太子さまが御生れになった」サイレンが鳴り喜びの歌。戦前・中・後の世代を経験された上皇様に「ご苦労様でした」と申し上げ、両陛下のご長寿を祈念したい。

★赤道を越え40回を数える現地慰霊の旅、初めての興奮と感激、南十字星の下で散華した肉親への愛惜に涙した日を思い出す。元会長のご子息ほか、かの地への思い入れ今も。

★台風の強風により倒壊した県護國神社鳥居が見事に再建された。多額の事業費集めに奔走された遺族関係者のご尽力に敬意を表したい。（T）